

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
運動解剖学		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
関口 賢人	D306	y-sekiguchi	月曜日 16:00~17:00		
授業の目的・概要	<p>触診技術は多くの理学療法検査・測定法、運動療法の技術の向上に不可欠なものである。運動解剖学では、各身体部位の機能解剖について講義後に体表から骨、関節、筋肉、靭帯、神経をトレース（組織を水性ペンでなぞる）し、触診練習を行い、正しい触診方法を実践できることを目的とする。加えて主に運動器疾患に対する臨床場面を想定した触診法について痛み、可動域制限の原因組織の特定ができることを目的とする。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	この授業では、解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎医学分野の知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。				
教科書	運動学テキスト/ 監修：細田多穂 / 南江堂 (必要に応じてプリントを配布する)				
参考書	骨格筋の形と触察法 改訂第2版/ 著：河上敬介、磯貝香 他 /大峰閣 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 / 監：青木隆明 / メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 / 監：青木隆明 / メジカルビュー社				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	組織に合わせた触診技術を用いることができる。			PT (1) (2) (3) (5)	
②	触診技術を磨く中で組織の位置や形を理解することができる。			PT (1) (2) (3) (5)	
③	各身体組織の機能解剖学を理解することができる。			PT (1) (2) (3) (5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	触診 (Palpation) の目的、意義 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P1~43 を復習しておく。	4	
2	触診 (Palpation) の方法 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P1~43 を復習しておく。	4	
3	肩甲帯部の機能解剖と触診① (肩甲骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P158~187 を復習しておく。	4	
4	肩甲帯部の機能解剖と触診② (胸骨・鎖骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P158~187 を復習しておく。	4	
5	肘関節部の機能解剖と触診 (上腕骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P188~204 を復習しておく。	4	
6	肘関節部の機能解剖と触診 (橈骨・尺骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P188~225 を復習しておく。	4	
7	手関節部の機能解剖と触診 (手根骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P205~225 を復習しておく。	4	
8	手関節部の機能解剖と触診 (手指部と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P205~225 を復習しておく。	4	
9	股関節部の機能解剖と触診① (骨盤帯と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P226~248 を復習しておく。	4	
10	股関節部の機能解剖と触診② (大腿骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P226~248 を復習しておく。	4	
11	膝関節部の機能解剖と触診 (脛骨と筋のトレース)。臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P249~267 を復習しておく。	4	
12	膝関節部の機能解剖と触診 (腓骨・膝蓋骨と筋のトレース)。臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P249~267 を復習しておく。	4	
13	足関節部の機能解剖と触診 (足根骨と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P268~297 を復習しておく。	4	
14	足関節部の機能解剖と触診 (足趾部と筋のトレース)。 臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P268~297 を復習しておく。	4	
15	末梢神経の機能解剖と触診 (正中神経、尺骨神経、橈骨神経、坐骨神経、大腿神経)。臨床場面を想定して実施する。	講義・実技	運動学テキスト P298~311 を復習しておく。	4	
試					

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	50	0	0	0	0	50
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験 70%、実技試験 30%で判断する。筆記試験は、教科書ならびに授業中のスライド、配布するプリントの範囲から出題する。				試験結果に関する講評と解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員							
教 員 の 実 務 経 験	運動器系理学療法（徒手理学療法）を中心に、理学療法士として病院、整形外科診療所、スポーツ現場での実務経験あり。						
実 践 的 授 業 の 内 容	主に運動器疾患に対する臨床場面を想定した触診法について、痛みや可動域制限の原因組織の特定できる技術を練習する。						
そ の 他	＊実技を実施する際は、動きやすい格好で参加すること。 ＊大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。 問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。						